

安全データシート

改訂日:2018年9月28日

1. 製品及び会社情報

化学品の名称
会社名
住所
電話番号

コロジオン(5%)
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
02457

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
健康に対する有害性

引火性液体:区分1
急性毒性(経口):区分4
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:区分2B
発がん性:区分1A
生殖毒性:区分1A
特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分3(気道刺激性, 麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復ばく露):区分1(肝臓, 中枢神経系)

* 記載のないものは「分類対象外」,「分類できない」または「区分外」。

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険

極めて引火性の高い液体及び蒸気
飲み込むと有害
眼刺激
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
発がんのおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
長期にわたる又は反復ばく露による肝臓, 中枢神経系の障害

注意書き

【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
容器を接地すること/アースをとること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。
火災を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
容器を密閉しておくこと。

【応急措置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。
飲み込んだ場合:口をすすぐこと。直ちに医師に連絡すること。
皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
医師の診断/手当てを受けること。
ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師の診断/手当てを受けること。

【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良い場所で施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。

該当情報なし。

他の危険有害性

3. 組成、成分情報

化学品・混合物の区別

混合物

化学名
別名
化学式
CAS RN
含有量
官報公示整理番号(化審法、安衛法)
GHS分類に寄与する不純物及び安定化合物

ピロキシリン	ジエチルエーテル	エタノール
ニトロセルロース	エチルエーテル	エチルアルコール
$(C_{12}H_{16}N_4O_{18})_n$	$C_2H_5OC_2H_5$	C_2H_5OH
9004-70-0	60-29-7	64-17-5
5%	68%	27%
(8)-176	(2)-361	(2)-202

該当情報なし。

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。

皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

眼に入った場合

医師の診断、手当てを受けること。

水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

医師の診断、手当てを受けること。

飲込んだ場合

口をすすぐこと。無理して吐かせないこと。

直ちに医師の診断、手当てを受けること。

予測できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状

肺水腫及び喘息の症状は、遅くなって現れる。

吸入: 咳、咽頭痛、嗜眠、嘔吐、頭痛、疲労感、息苦しさ、意識喪失。

皮膚: 乾燥。

眼: 発赤、痛み。

経口: めまい、嗜眠、嘔吐、灼熱感、頭痛、錯乱、意識喪失。

応急処置をするものの保護

有機溶剤用の保護マスクがあればそれを着用する。

医師に対する特別な注意事項

該当情報なし。

5. 火災時の措置

消火剤

小火災: 二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤

大火災: 散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害性

極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。

火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

特有の消火方法

引火性の高い液体及び蒸気

散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。

引火点が極めて低い: 散水以外の消火剤で消火の効果がでない大きな火災の場合には散水する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

全ての着火源を取り除く。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

風上に留まる。

低地から離れる。

環境に対する注意事項	<p>密閉された場所に立入る前に換気する。 河川等へ排出され環境への影響を起こさないように注意する。 環境中に放出してはならない。</p>
封じ込め及び浄化の方法及び機材	<p>少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。</p>
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策(局所排気、全体換気等)	<p>静電気放電に対する予防措置を講ずること。 防爆タイプの全体換気装置、局所排気装置で換気すること。 作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。</p>
安全取扱注意事項	<p>周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 接触、吸入又は飲み込んではいない。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。</p>
接触回避	<p>炎、火花、強酸化剤</p>
衛生対策	<p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。</p>
保管	
安全な保管条件	<p>保管場所は耐火構造、使用する電気機器は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。 容器は直射日光を避け、密閉して換気の良い冷暗所に保管する。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。 酸化剤から離して保管する。 施錠して貯蔵する。 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。</p>
容器包装材料	
8. 暴露防止及び保護措置	
管理濃度	400ppm(ジエチルエーテル)
許容濃度	
日本産業衛生学会	400ppm, 1200mg/m ³ (ジエチルエーテル)
ACGIH	TLV-TWA: 400ppm, 1210mg/m ³ (ジエチルエーテル)
設備対策	<p>TLV-TWA: 1000ppm, 1880mg/m³(エタノール) 防爆の電気、換気、照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵しないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 防爆タイプの全体換気装置、局所排気装置で換気すること。</p>
保護具	
呼吸器の保護具	有機ガス用防毒マスク
手の保護具	保護手袋
眼の保護具	保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	作業着、保護長靴
9. 物理的及び化学的性質	
外観(物理的状態、形状、色等)	無色～微黄色の粘稠液体
臭い	エーテル臭
臭いの閾値	該当情報なし
pH	該当情報なし
融点・凝固点	該当情報なし
沸点、初留点及び沸騰範囲	39.3℃
引火点	-20℃以下(密閉式)
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	該当情報なし
燃焼性(固体、気体)	該当情報なし
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	該当情報なし

蒸気圧	該当情報なし
蒸気密度	該当情報なし
比重(相対密度)	0.77
溶解度	水に難溶。有機溶剤に可溶。
n-オクタノール/水分配係数	該当情報なし
自然発火温度	該当情報なし
分解温度	該当情報なし
粘度(粘性率)	該当情報なし
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	熱、光に不安定である。 光や空気の影響下で爆発性過酸化物を生成することがある。
危険有害反応可能性	強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。
避けるべき条件	高温、日光、火花、裸火
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素, 二酸化炭素, 酸化窒素
11. 有害性情報	
急性毒性	経口：(ニトロセルロース) ラットLD ₅₀ 値>5000 mg/kg (ジエチルエーテル) ラットLD ₅₀ 値=1.7 mL/kg (1,207 mg/kg) (エタノール) ラットLD ₅₀ 値=6,200 mg/kg 経皮：(ニトロセルロース) データなし。 (ジエチルエーテル)ウサギのLD ₅₀ > 20 mL/kg (> 14,200 mg/kg) (エタノール) ウサギのLDLo= 20,000 mg/kg 吸入(蒸気)：(ニトロセルロース) データなし。 (ジエチルエーテル)ラットの4時間吸入ばく露試験のLC ₅₀ 値として、32,000 ppm (PATTY (6th, 2012)), 2.5時間吸入ばく露試験のLC ₅₀ 値として、73,000 ppm (4時間換算値: 57,711ppm) (DFGOT vol. 13 (1999))との報告に基づき、区分外とした。なお、ばく露濃度が飽和蒸気圧濃度 (710.053 ppm) の90%より低いため、ミストがほとんど混在しないものとしてppmを単位とする基準値を適用した。 (エタノール) ラットのLC ₅₀ =63,000 ppmV (DFGOT vol.12(1999))、66,280 ppmV (124.7 mg/L) (SIDS (2005))のいずれも区分外に該当する。なお、被験物質の濃度は飽和蒸気圧濃度、78,026 ppmV (147.1 mg/L) の90% [70,223 ppmV (132.4 mg/L)]より低い値であることから、ppmVを単位とする基準値を用いた。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	(ニトロセルロース) データなし。 (ジエチルエーテル)ウサギを用いた皮膚刺激性試験(非閉塞適用)で、刺激性を示さなかったとの記載(DFGOT vol. 13 (1999))や、軽度の刺激性を示す可能性及び短時間では刺激性は認められないとの記載(PATTY (6th, 2012))がある。よって、ガイダンスの軽度の刺激性に該当する区分外(国連分類基準の区分3)とした。 (エタノール)ウサギに4時間ばく露した試験(OECD TG 404)において、適用1および24時間後の紅斑の平均スコアが1.0、その他の時点では紅斑及び浮腫の平均スコアは全て0.0であり、「刺激性なし」の評価SIDS(2005)に基づき、区分外とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	(ニトロセルロース) データなし。 (ジエチルエーテル)ウサギを用いた2件の眼刺激性試験で、軽度で可逆性の刺激を認めたとの記載や、グレード2(最大値10)で軽度の眼刺激性を示したとの記載(DFGOT vol. 13 (1999))がある。また、試験動物は不明だが眼に軽度で可逆性の障害を生じるとの記載(PATTY (6th, 2012))がある。よって、区分2Bとした。 (エタノール)ウサギを用いた2つのDraize試験(OECD TG 405)において、中等度の刺激性と評価されている(SIDS(2005))。このうち、1つの試験では、所見として角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫がみられ、第1日の平均スコアが角膜混濁で1以上、結膜発赤で2以上であり、かつほとんどの所見が7日以内に回復した(ECETOC TR 48(2) (1998))ことから、区分2Bに分類した。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器：(ニトロセルロース) データなし。 (ジエチルエーテル)データ不足のため分類できない。

(エタノール) データ不足のため分類できない。なお、アルコールによる気管支喘息症状の誘発は血中アルデヒド濃度の増加と関係があると考えられている。一方、軽度の喘息患者2人がエタノールの吸入誘発試験で重度の気管支収縮を起こしたことが報告されている (DFGOT vol.12 vol.12(1999)) が、その反応がアレルギー由来であることを示すものではないとも述べられている (DFGOT vol.12 vol.12(1999))。

皮膚: (ニトロセルロース) データ不足。なお、アレルギーを持たない1人の男性が足に怪我をして本物質を浸したリントで包んだところ、12日後に包んだ下の皮膚に紅斑、水疱および落屑を生じたが、閉塞適用が感作性を起こし得ることを示唆するものであると述べられている (PATY (5th, 2001))。

(ジエチルエーテル) データ不足のため分類できない。なお、モルモットを用いた感作性試験で本物質に対する感作性は認められなかったが、この試験の信頼性に疑問があるとの記載 (DFGOT vol. 13 (1999)) がある。

(エタノール) ヒトでは、アルコールに対するアレルギー反応による接触皮膚炎等の症例報告がある (DFGOT vol.12 vol.12(1999)) との記述があるが、「ヒトでは他の一級または二級アルコールとの交叉反応性がみられる場合があること、動物試験で有意の皮膚感作性はみられないことにより、エタノールに皮膚感作性ありとする十分なデータがない」(SIDS(2005)、DFGOT vol.12 vol.12(1999)) の記述に基づきデータ不足のため分類できないとした。

生殖細胞変異原性

(ニトロセルロース) データなし。

(ジエチルエーテル) In vivo データはなく、in vitro では、細菌の復帰突然変異試験で陰性、あいまいな結果、哺乳類培養細胞の姉妹染色分体交換試験で陰性である (DFGOT vol.13 (1999)、NTP DB (Access on September 2017))。以上より、ガイダンスに従い分類できないとした。

(エタノール) in vivo、in vitro の陰性結果あるいは陰性評価がされており、分類ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できないため、「分類できない」とした。すなわち、マウスおよびラットを用いた経口投与 (マウスの場合はさらに腹腔内投与) による優性致死試験において陽性結果 (SIDS (2005)、IARC (2010)、DFGOT vol.12 (1999)、PATY (6th, 2012)) があるものの、試験条件の不十分性や試験結果の誤りなどが認められ信頼性は低い又は信頼性なしと評価している (SIDS (2005)、DFGOT vol.12 (1999))。また、ラット、マウスの骨髄小核試験で陰性、ラット骨髄及び末梢血リンパ球の染色体異常試験で陰性 (SIDS (2005)、PATY (6th, 2012)、IARC (2010)、DFGOT vol.12 (1999))、チャイニーズハムスターの骨髄染色体異常試験で陰性 (SIDS (2005)) である。また、マウス精子細胞の小核試験、精母細胞の染色体異常試験、ラット精原細胞の染色体異常試験、チャイニーズハムスター精原細胞の染色体異常試験 (異数性) で陰性である (IARC (2010)、DFGOT vol.12 (1999))。なお、陽性の報告として、ラット、マウスの姉妹染色分体交換試験がある (DFGOT vol.12 (1999)、PATY (6th, 2012)) が、SIDS (2005) などでは評価されていない。in vitro 変異原性試験として、エームス試験、哺乳類培養細胞を用いるマウスリンフォーマ試験及び小核試験はすべて陰性と評価されており (PATY (6th, 2012)、IARC (2010)、DFGOT vol.12 (1999)、SIDS (2005)、NTP DB (Access on June 2013))、in vitro 染色体異常試験でも CHO 細胞を用いた試験1件の陽性結果を除き他はすべて陰性であった (SIDS (2005)、PATY (6th, 2012)、IARC (2010))。なお、この染色体異常の陽性結果は著しく高い用量で生じており、高浸透圧のような非特異的影響に起因した染色体傷害の可能性があると記載 (SIDS (2005)) されている。

発がん性

(ニトロセルロース) データ不足。なお、プラスチック生産工場の労働者を対象としたケース・コントロール研究 (PATY (5th, 2001)) において、直腸がんとは本物質ばく露との関連の可能性が確認され、さらに調査を継続するに値する結果であったことが報告されている。

(ジエチルエーテル) データ不足のため分類できない。

(エタノール) エタノールは ACGIH で A3 に分類されている (ACGIH (7th, 2012))。また、IARC (2010) では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされているため、区分1A に分類する。

生殖毒性

(ニトロセルロース) データなし。

(ジエチルエーテル)妊娠マウス又は妊娠ラットの器官形成期に吸入ばく露した結果、胚死亡の増加、全身性浮腫の頻度増加(マウス)、頭腎長の減少(ラット)がみられたとの報告、妊娠ラットの早期又は後期器官形成期に吸入ばく露した結果、胎児の早期又は後期吸収、及び骨格異常がみられたとの報告、妊娠ラットの器官形成期に吸入ばく露した場合は口蓋裂がみられたが、妊娠マウスにばく露した場合にはみられなかったとの報告がある(DFGOT vol. 13 (1999)、HSDB (Access on August 2017))。以上、実験動物を用いた多くの発生毒性に関する報告では、母体毒性の有無が不明な状況において、明らかな胎児毒性、及び一部に奇形発生の増加がみられており、本項は区分2が妥当と判断した。

(エタノール)ヒトでは出生前にエタノール摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている。奇形には小頭症、短い眼瞼裂、関節、四肢及び心臓の異常、発達期における行動及び認知機能障害が含まれる(PATTY (6th, 2012))。これらはヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられるため、区分1Aとした。なお、胎児性アルコール症候群は妊娠中に大量かつ慢性的にアルコールを飲んだアルコール依存症の女性と関連している。産業的な経口、経皮、吸入ばく露による胎児性アルコール症候群の報告はない。また、動物実験でも妊娠ラットに経口投与した試験で奇形の発生がみられている。

特定標的臓器毒性(単回暴露)

(ニトロセルロース)経口摂取による中毒は、発現が速く持続時間が短いことを除きエタノールと類似しており(HSDB (2003))、吸入した場合はめまい、多幸感、中枢神経系の抑制、または、呼吸困難、意識喪失を起こす可能性があるとの記載(HSDB (2003))に基づき、区分3(麻酔作用)とした。

(ジエチルエーテル)ヒトでは、本物質は19世紀半ばから吸入麻酔剤として用いられて来た(DFGOT vol. 13 (1999)、産衛学会許容濃度の提案理由書(1997))。また、10名のボランティアによる試験で、200 ppm、3～5分間の吸入ばく露で、被験者が鼻粘膜の刺激を訴えたとの報告がある(DFGOT vol. 13 (1999)、ACGIH (7th, 2001))。実験動物では、マウスを用いた単回吸入ばく露試験(ばく露時間の記載なし)で、32,000 ppmで興奮と麻酔効果がみられ、64,000 ppmで深麻酔に陥ったが、ばく露の終了により空気中から本物質が除去されると回復したとの報告がある(PATTY (6th, 2012))。以上より、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。

(エタノール)ヒトの吸入ばく露により眼及び気道への刺激症状が報告されている(PATTY (6th, 2012))。血中エタノール濃度の上昇に伴い、軽度の中毒(筋協調運動低下、気分、性格、行動の変化から中等度の中毒(視覚障害、感覚麻痺、反応時間遅延、言語障害)、さらに重度の中毒症状(嘔吐、嗜眠、低体温、低血糖、呼吸抑制など)を生じる。さらに、呼吸または循環不全により、あるいは咽頭反射が欠如した場合には胃内容物吸引の結果として死に至ると記述されている(PATTY (6th, 2012))。ヒトに加えて実験動物でも中枢神経系の抑制症状がみられている(SIDS (2005))。以上より、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。

特定標的臓器毒性(反復暴露)

(ニトロセルロース) データなし。

(ジエチルエーテル)ヒトにおいて、慢性ばく露による食欲不振、疲労、頭痛、不眠、めまい、興奮、精神障害が生じることが報告されている(ACGIH (7th, 2001))。実験動物については、ラットを用いた13週間経口投与毒性試験において、区分2のガイダンス値の範囲を超える500 mg/kg/dayで影響がみられず、2,000 mg/kg/day以上で体重減少のみが報告されている(IRIS (1990))。以上、ヒトにおいて中枢神経系への影響がみられることから、区分1(中枢神経系)とした。なお、旧分類ではヒトの神経症状が一過性と考えられることから分類根拠としていないが、新たな情報源を用いたこと、精神障害が生じることを重視して分類根拠としたため旧分類と分類結果が異なった。

(エタノール)ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する(DFGOT vol.12(1999))との記載に基づき区分1(肝臓)とした。また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国FDAは3種類の治療薬を承認しているとの記述がある(HSDB (Access on June 2013))ことから、区分2(中枢神経系)とした。なお、動物実験では有害影響の発現はさほど顕著ではなく、ラットの90日間反復経口投与試験において、ガイダンス値範囲をかなり上回る高用量で肝臓への影響として脂肪変性が報告されている(SIDS (2005)、PATTY (6th, 2012))。

吸引性呼吸器有害性

(ニトロセルロース) データなし。

(ジエチルエーテル)データ不足のため分類できない。なお、旧分類ではList 3の情報源を用いて区分2に分類されたが、根拠はヒトでの事例等に基づいた報告ではなく、一般的注意事項である。また、旧分類後に制定された分類JIS (JIS Z7252:2014)では本項分類区分は区分1のみで、区分2はない。

(エタノール) データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

急性: (ニトロセルロース) 藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)での96時間EC₅₀=579000 μg/L(AQUIRE, 2010)であることから、区分外とした。
 (ジエチルエーテル) 魚類(ファッドヘッドミノー)96時間LC₅₀ = 2,560 mg/L (NLM HSDB:2014, EPA AQUIRE :2017, Geiger,D.L. et al(1986))、甲殻類(オオミジンコ)24時間EC₅₀(遊泳障害)= 165 mg/L(NLM HSDB:2014, EPA AQUIRE:2017, Bringmann,G. et al(1982))であることから、区分外とした。
 (エタノール) 藻類(クロレラ)の96時間EC₅₀ = 1000 mg/L(SIDS, 2005)、甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC₅₀ = 5463 mg/L(ECETOC TR 91 2003)、魚類(ニジマス)の96時間LC₅₀ = 11200 ppm(SIDS, 2005)より、藻類、甲殻類及び魚類において100 mg/Lで急性毒性が報告されていないことから、区分外とした。

長期間: (ニトロセルロース) 急性毒性区分外であり、難水溶性ではない(水溶解度=1000000 mg/L(PHYSPROP Database, 2009))ことから、区分外とした。
 (ジエチルエーテル)慢性毒性データが得られていない。急速分解性がなく(難分解性、GCによる分解度: 13%(化審法DB:1985))、急性毒性区分外であることから、区分外とした。
 (エタノール)慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(BODIによる分解度: 89%(既存点検, 1993))、甲殻類(ニセネコゼミジンコ属の一種)の10日間NOEC = 9.6 mg/L(SIDS, 2005)であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、藻類、魚類ともに急性毒性が区分外相当であり、難水溶性ではない(miscible、ICSC, 2000)ことから、区分外となる。以上の結果から、区分外とした。

残留性・分解性

(ニトロセルロース) 該当情報なし
 (ジエチルエーテル) 難分解性
 (エタノール) 良分解性

生体蓄積性

(ニトロセルロース) 該当情報なし
 (ジエチルエーテル) 低濃縮性
 (エタノール) 該当情報なし

土壤中の移動性

該当情報なし

オゾン層への有害性

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号
 品名(国連輸送名)
 国連分類
 容器等級

2059
 NITROCELLULOSE SOLUTION, FLAMMABLE
 3
 I

国内規制

陸上輸送
 海上輸送
 航空輸送

消防法の規定に従う。
 船舶安全法の規定に従う。
 航空法に従う。

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。
 重量物を上積みしない。

応急措置指針番号

127

15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)
 毒物及び劇物取締法

該当しない
 該当しない

消防法
労働安全衛生法

危険物第4類特殊引火物
危険物(引火性の物)
名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物
第2種有機溶剤
危険物等級3引火性液体類
危険物引火性液体
危険物(引火性液体類)

船舶安全法
航空法
港則法

16. その他の情報
参考文献

NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)
16615の化学商品(化学工業日報社)
職場のあんぜんサイト(厚労省HP)
NITE-GHS分類結果(製品評価技術基盤機構HP)
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ(化学工業日報社)
化学大辞典(共立出版)
記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。